



<CAM フィリピン・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

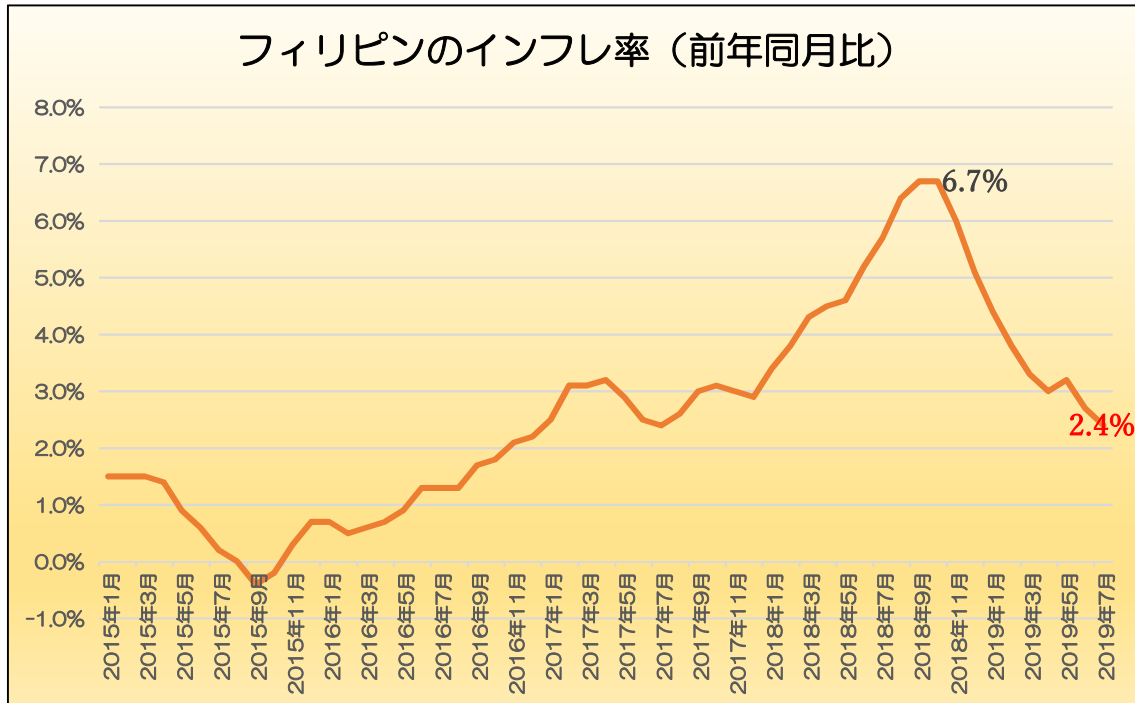
2019年8月7日

フィリピンの7月CPI

食料品価格下落で安定

フィリピン統計庁（PSA）が発表した同国の7月のCPIは前年同月比2.4%だった。今年に入り昨年大幅上昇したCPIは落ち着きを取り戻している。6月の2.7%からさらに下落した。コメ輸入の数量制限が撤廃されたことなどが主な理由。食料はCPI構成比率の約40%に上り、そのうちコメが10%を占める。今後さらに1%台に落ち込むとの見方もある。

2018年は原油価格の上昇や台風の農作物への影響等により、CPIは6.7%まで上昇した。BSPは物価安定の目的で合計1.75%の利上をしていたが、今年5月から利下げに転じていた。



出所：PSA のデータをもとにキャピタル アセットマネジメントにて作成
以上